

《イタリア・トスカーナ特集》

ヨーロッパを愛し知性を磨く女たちへ

amarena

究極の香りを
探す——パリ

秘密の香水スクエア

アマレーナ

9

Settembre 2009

定価 700円

トスカーナへ リチャージの旅

至福のテルメ

海辺の「ペリカンホテル」

アンティノーリ家 姉妹の週末

ウィークデイに取り入れたいファッションは

シック&ロマンティック

ブルガリ大回顧展 in Rome

interview

仲村トオル

好評連載コラム

勝間和代

経済評論家



1. 香水の発表会場を囲む半透明の布の上にはプリントされたブルガリのロゴ。 2.5. 新作「ブルー・オールド・パルファムII」の素材となる各種の花や葉が展示された。無色の花はスミレとアイリス。 3. ラディスボリの海に面したホテルの中庭が新作香水の発表の場。 4. レティシア・カスタが今回の新作香水のキャンペーンモデルに選ばれている。大きなお腹を香水にちなんで水色のドレスに包んで権上に立った。 5. 今回の香水の調香師ジャック・キャバリエ氏の挨拶。 7. 「ブルー・オールド・パルファムII」を展示するプール。レティシア・カスタを使った広告写真が壁面に見える。プールの水の色がさわやかな香りと結びつく。 8. ブルガリCEO、フランチェスコ・トラーバーニ氏。発表会の後は、海辺に面したテラスで昼食会が催された。



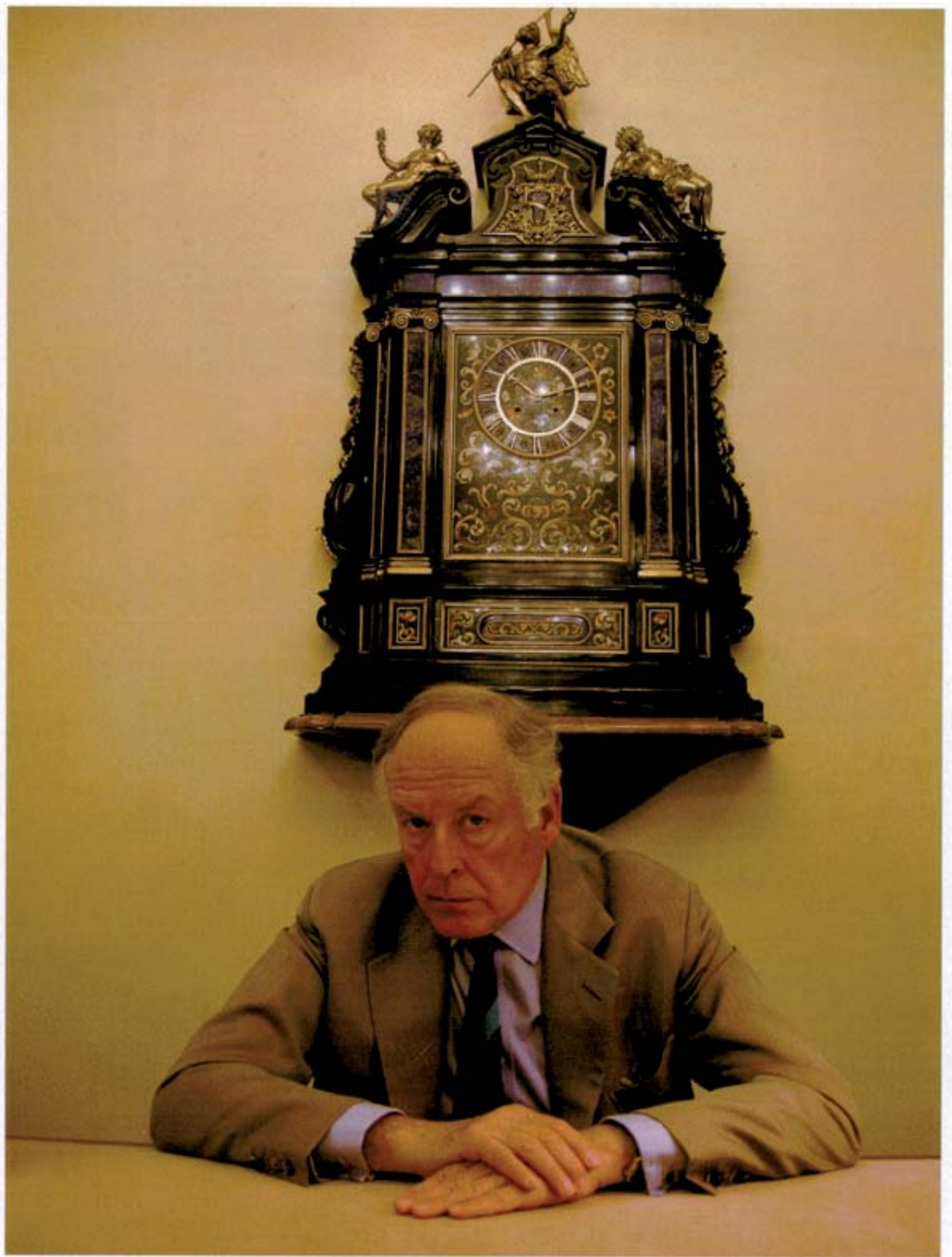
ブルガリの過去と未来を香りにつなぐ 新作香水「BVL Eau de Parfum II」

1

25周年を記念して、ブルガリは香水を発表した。「ブルー・オールド・パルファムII」。10年前に発表になった「ブルー」の第2弾である。資料には「ナチュラールでリッチ、輝きをもつ濃厚さ」と書かれている。ごく薄い水の色、あるいは空の色、またはスミレの花の色をした香水である。透明なエレガンスを見せる香水瓶に収まった淡い水色。カンディンスキーも好んだという色彩だ。トップノートは、スミレ、スターアニス、マンダリン。そこにアイリスアブソリュート、ハイチアン・ベチバーなどの花香が続く。調香師ジャック・キャバリエ氏は、さらにパチュリなど木の香を加えている。

「ブルー・オールド・パルファムII」の発表会場は、ローマから1時間の距離にある町、ラディスボリの海に突き出したホテル内に用意された。地下に古代ローマの遺跡が残されたホテルの庭だ。強烈なラツィオ地方の太陽の下、輝く海を背景に、ごく淡い水色に染められた薄手の布を日よけにしつらえた会場で、調香師ジャック・キャバリエ氏は次のように語った。「ブルガリと仕事ができるのは、名誉なことである。自由な発想のもとに香りを創造できるからだ」

キャンペーンモデル、レティシア・カスタも大きなお腹を水色のロングドレスに包んで、にこやかな挨拶を返していた。テラスに用意された昼食用のテーブルには、「ブルー・オールド・パルファムII」の素材である、スミレやアイリスが活けられ、それらはたちまち出席者のノートのパージに挟まれた。



ブルガリ社副会長として、ジュエリーになくてはならないロマンを守りつづけるニコラ・ブルガリ氏。



ンテイークなジュエリー
の店は一種のモニュ
メントだ」と言うのは
ニコラ・ブルガリ氏。

時間と文化の富が集約された宝飾品
は、まさに水遠のものである。

「創業者の祖父が亡くなった時、私
はまだ20歳だった。この店に佇み、
ブルガリの歴史に思いをはせると、
時間と空間の開きが大きすぎると感
じる。同時に、この歴史を日々、
とても貴重に感じている」

ニコラ氏は、創業者ソテリオ・
ブルガリ氏の孫にあたり、現在、ブ
ルガリ社の副会長という要職にある。

125年前から存在し続けるブル
ガリの、ローマ・コンドッティ通り
の本店。店内は、かつてのままの状
態を保つよう、時折修復が行われて
いる。同店に入っすぐ右手にある
接客室。壁面には、1725年に
フィレンツェの装飾芸術家フォッジ
ーニが製作したというエポニー製の
時計が今なお、時を刻み続けている。
そこで会ったニコラ・ブルガリ氏は、
端正な顔立ち、立派な体軀、決し
て慌てることのない優雅な身のこな
し、と見るからに紳士である。氏は、
このブルガリ本店に5歳の時から頻
繁に出入りしていたという。

「父は常に、このクルミの机の前に、
まさしくこのように座って、訪れる
人に商品の説明をしていた。私はそ
の傍らで、父の言葉に聞き入ったも
のだ」
父親のジョルジョ・ブルガリは、
とても謙虚な人物だったとニコラ氏
は回想する。

「私が父からもらったのはその部分
だと思う。父はこの部屋で、宝飾品

副会長ニコラ・ブルガリ氏の ロマンティズムとダンディズム

コンドッティ通りにあるブルガリ本店に、5歳の時から出入りしていたというニコラ氏。
音楽をこよなく愛し、美術を愛し、歴史を愛する同氏の、豊かな感受性がブルガリの美意識を保証する。

への愛情の深さや正直に生きること
の意味を教えてくれた」

ニコラ氏は、石についての造詣が
深い。

「近年ダイヤモンドの値段は高くな
りすぎている。ブルーやローズのダ
イヤモンドの価格は論外だ。エメラ
ルドもコロンビア産に勝るものはな
いが、生産量が減ってきている。宝
飾の世界も大きく変わりつつあるね」
ローマとブルガリの関係は長く、
また深い。

「父が亡くなった時、ローマに9世
紀から続く由緒ある家の王女が挨拶
に来てくれた。亡くなった父は「ラ
イフ」誌を収集していたので、その
中から彼女の家族の記事が掲載され
ていた1925年の3月号を差し上
げた。それを思いのほか喜んでくれ
て、私も嬉しかった」

19世紀にローマにやってきたブル
ガリ家と9世紀から続くローマの旧
家との間に厚い友情が築かれるほど
に、ブルガリ家がローマにすっかり
と根づいていることを物語るエピソ
ードである。

とはいえ、ニコラ・ブルガリ氏本
人は、ローマ人のはじけるような陽
気さとは異なった性格の人物である
ように映る。思ったことをすぐ口
にしない。いったん頭の中で反芻して
から、おもむろに口を開く。視線も
はるか遠くを彷徨う。

「感動を覚えることや好奇心をもち
続けることはとても重要なことだと
思うね」

寶石には男女の愛の物語が伴うこ
とが多い。ニコラ氏も、したがって
文学に感動を覚えるのかと思いきや、
氏ももつとも情熱を傾けているのは

音楽であるという。

「トスカーナの家にスタインウェイ
を2台持っている。1台は1877
年のもので、もう1台は1883年
のものだ。ニューヨークの58番街で
見つけて修復に出した。修理を終え
たところで、ピアニストのアルド・
チッコリーニを招いて演奏を頼んだ
んだ。その時の感動は、忘れること
ができない」と、感慨を語る。

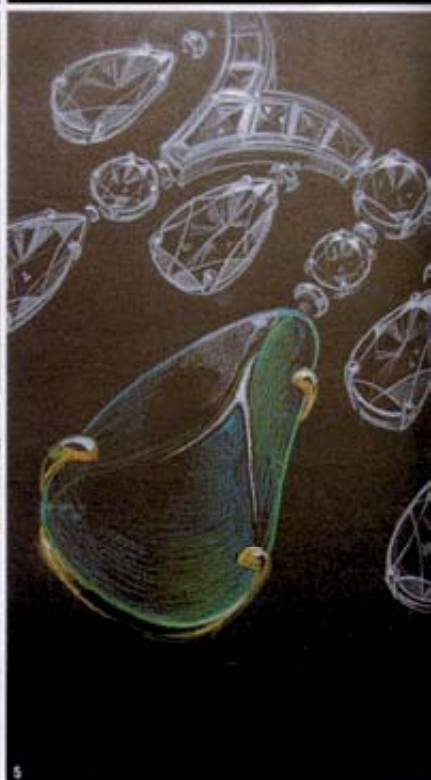
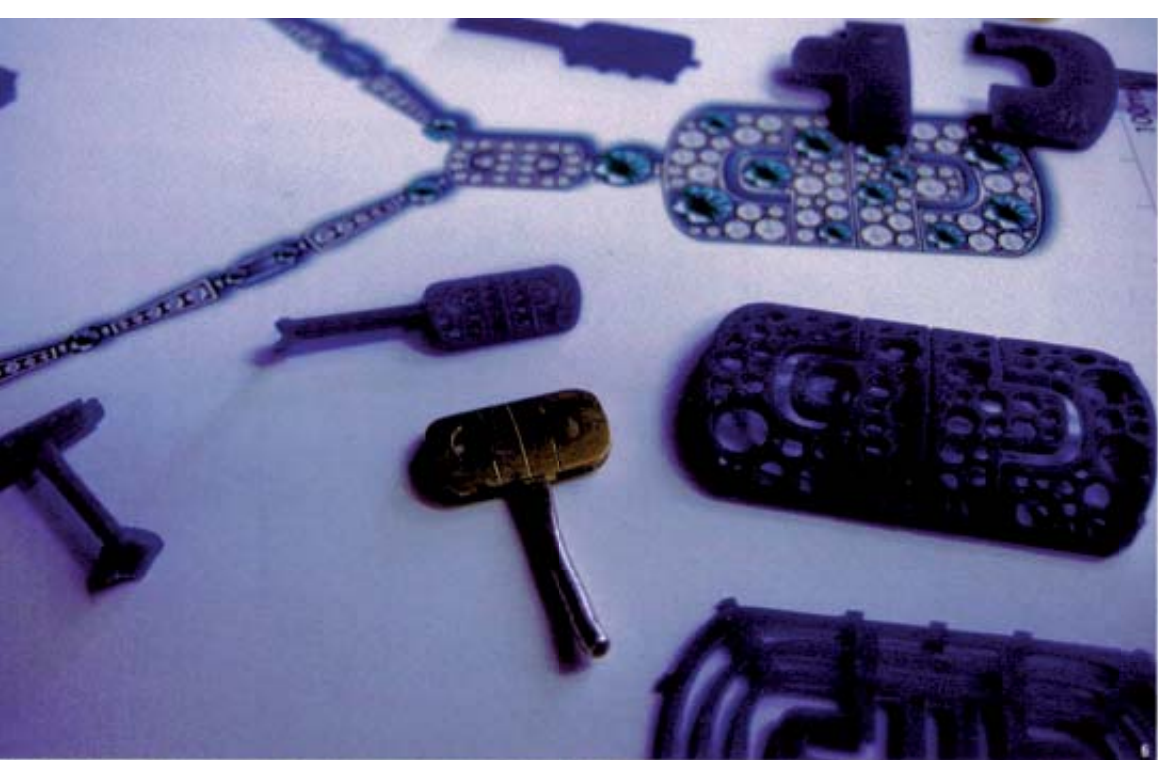
仕事のうえで、基本は感動にあ
るといふ。たとえば、マハラジャの
宝飾品の本を眺める時は、必ず鳥肌
が立つ思いがするのだと。同様に、
美術もニコラ氏の心を揺り動かす。

「絵画ならピエロ・デルラ・フラン
チェスカだ。デ・キリコの形而上学
的な世界もいいね。未来派の作品も
収集している。ミラノでも未来派展
が開かれているのなら、出かけて行
かなくてはなるまい」。

ニコラ氏は饒舌になる。もうひと
つ好きな分野は歴史のようである。
「戦時中の英雄、イタロ・バルボが
いい。私の父はリンドバークに傾倒
していたが、グランツイアーノ將軍
も面白いと思う。大物だと思わない
かね？ 理想を高く掲げるだけでは
なく、勇気がある」

ニコラ・ブルガリ氏はロマンティ
ストなのだ。この現実の世界とはま
た別の世界にも生きているのかわし
れない。今は亡き父親の時代を反芻
しているのかもしれない。ブルガリ
の宝飾品の飛躍した発想にひと役買
っているのは、このニコラ氏のロマ
ンティックな感受性なのだろう。宝
石からロマンを外したら、そこに残
るのは、鉱物としての石と加工技術
だけなのだから。





によれば、美しいのは石をはめ込む作業だという。石をはめ込むメカニズムの部分が見えてはならないのである。唯一、60年代のフォルムだけは、石をはめ込むために爪が立った状態にある。肌に密着する部分は肌を傷つけない優しい仕上がりでなくてはならない。その点への配慮もブルガリならではの特徵である。

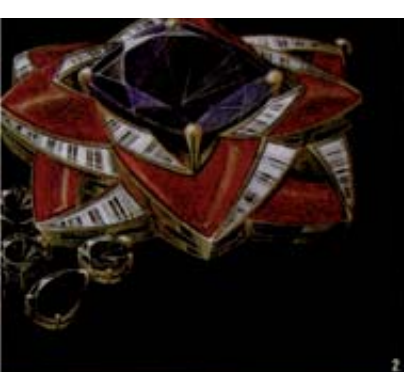
各ジュエリー製作のプロジエクトはすべて図面によって管理されている。資料として収蔵されている過去の図面を見直して改良を図っていく。ブルガリの40年代、50年代の作品については、そうした資料が消失している例も少なくない。その場合には、その時代の作品を買い戻して研究し、図面におこして保管し、製作に応用する。年季の入った取り組みである。

これらの品質コントロールの責任者はブルガリ・ファミリーである。スケッチそのものにも、貴石と半貴石を組み合わせて作られるフォルムにも、パオロ氏による大胆な手直しが入られるのが常である。特に非対称形を特徴としているが故に、バランスの良いフォルムの構築は容易ではない。最終仕上げが終わると、パオロ氏のチェックが始まる。

彼は目を閉じて製品に触れる。「美しい外観とともに感触は重要である」

さらに石の引き出す音にも耳を傾けるのだという。目を閉じて、というところに妙がある。

肌に着けられる宝飾品が、製造工程において五感をもって完成させるというのは理にかなっている。



ペンダーカラーのジュエルストーンとダイヤモンドで
れるネックレス「フローラ」。2.ジュエリー・デザ
の製図の一例。バゲットカットのダイヤモンドの
に、熟練した職人が見て取れる。3.アーカイブ資
ひとつひとつの石や加工法や装飾の方法について、
細かな指示が記されている。4.アルペロ（英語で
ールドフリー）。1点のジュエリー制作に必要な複
要素の金型の集合体。5.三次元の模型を作るた
必要な二次元の製図。石を留めるための爪の位置
さも含めて、実物大で描かれる。6.石がはめ込
る前の精密な模型。7.8.ごく精巧なデザイン画は、
な資料となる。将来、同じデザインの装身具を作
に利用される。9.金の台の上にサファイアを配
た状態。



卓越した職人の手が作り上げる宝飾品

職人の手仕事で作られるブルガリの宝飾品は、細部にまで及ぶ品質の徹底的な管理と、入念な作業の積み重ね、そして選りすぐられた貴石と半貴石などの集積の妙である。アーカイブの図面と資料も財産だ。

ブ

ブルガリの宝飾品の製造工程を知るために、工房を訪ねた。

ブルガリの宝飾品は、

すべて職人たちの手仕事によって完成される。ブルガリに育てられた熟練職人たちは、数多くいる。

ブルガリのジュエリーは、ローマ郊外にある工房において、デザイナーが描く二次元の製図に始まり最終的に製品となる。

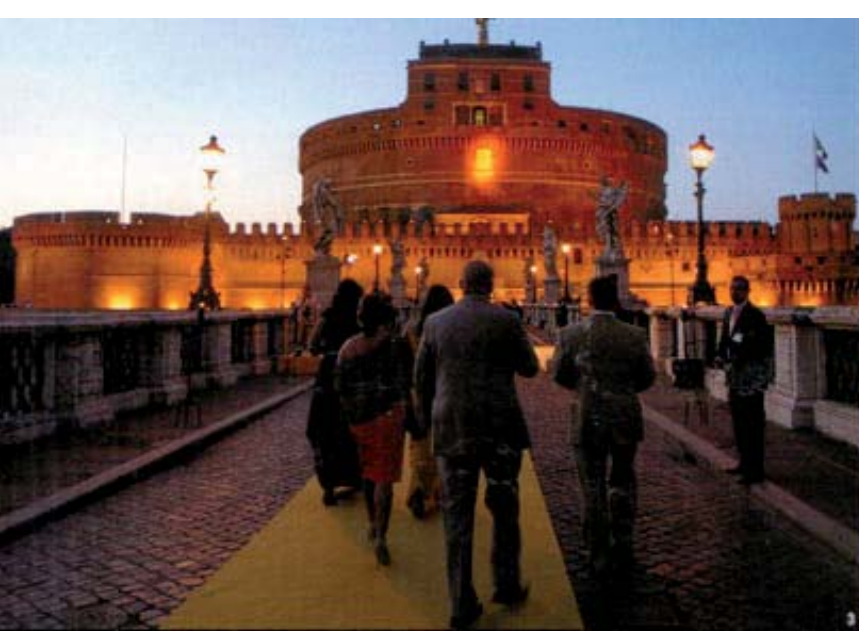
重要なことは正確を期すこと。そして優れた品質を継続的に保つこと。製図だけでは立体が見せるハーマネーまでは分からない。そのためにこの工房でも、ろう型を作る。その工程は6段階に分けられる。

①実物大の模型を作る。
②模型をもとに、石をはめ込むメカニズムの細部を実現するための、ろう型を作る。

③キャストインクの構造を作る。
④石を組み合わせる。

⑤石をはめ込む。
⑥さまざまな素材で石の表面を磨いて仕上げをする。

つまり、部分ごとの金属フォルムを作り、粘土の中に埋めて型をとる。その型をチェックすることで、出来上がり方を事前に管理する。その型に石膏を流し込んで乾燥させる。オーブンに入れて850度で16、18時間焼く。各フォルムの品質チェックをしてから各部品を一体化させるとい



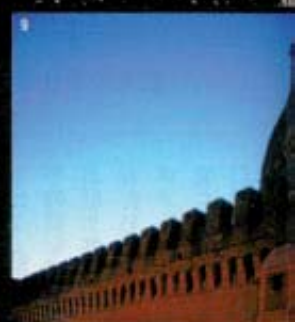
サンタンジェロ城に集う 各国の映画人と文化人

かつてハドリアヌス帝の霊廟として建てられたサンタンジェロ城。神秘的な城内に用意された晩餐の夕べには、ジーナ・ロロブリジーダ、クロエ・セヴィニー、アラン・ドロンなど今日の映画人たちが参加した。

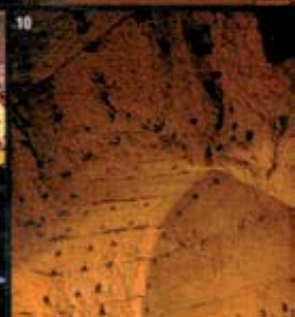
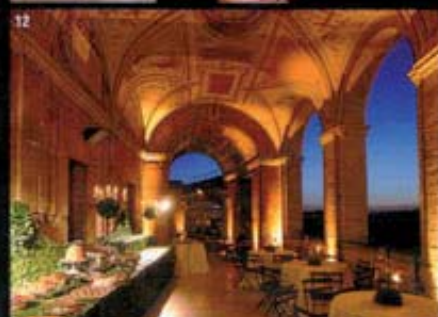
1. クロエ・セヴィニーはブルガリのネックレス「スピガ」を身につけて登場。ほかにもマルゲリータ・ミッソーニなどミラノから駆けつけたファッション界、映画界の招待客も少なくなかった。アラン・ドロンの姿も見られた。2. 城内へのエントランス、20メートルを超える天井の高さは圧巻。3. 夕日に浮かび上がるサンタンジェロ城へ向かって多く華やかな招待客。4. 城の屋上で開かれたカクテルパーティ。5. 「Save the Children」のプロジェクトに賛同しているアーティストたちの写真を無償で撮影しているファブリツィオ・フェッリ(右)夫妻。



6. ジーナ・ロロブリジーダはダイヤモンドとエメラルドのネックレスとイヤリングで貴族の華やかさ。7. ピンクのドレスのセルマ・ブレア。イヤリング、ブレスレット、リングはすべてブルガリのハイジュエリー。8. サンタンジェロ城内の晩餐会場に誘うキャンダルで神秘的に演出された邸庫。9. 18. 歴史とロマンを感じさせる城の石積み。10. ミラノのブルガリホテルから出張したシェフの料理に舌鼓を打つ招待客たち。11. ローマの街を見下ろしながら、盛大な祝宴は続いた。

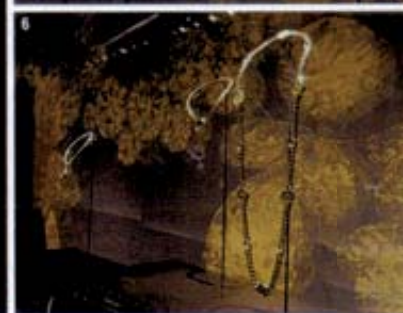


イタリアでは、ブルガリの125周年記念切手、350万枚を発行。モチーフに使われているのはエメラルド、ターコイズ、アメシスト、ダイヤモンドをあしらった1960年代のネックレス。1枚0.6ユーロ。ローマ、ミラノ、ヴェネツィア、ナポリで購入可能。エクスクルーシブなお土産として最適だ。(日本発行の切手も存在するが一般の購入は不可能。)



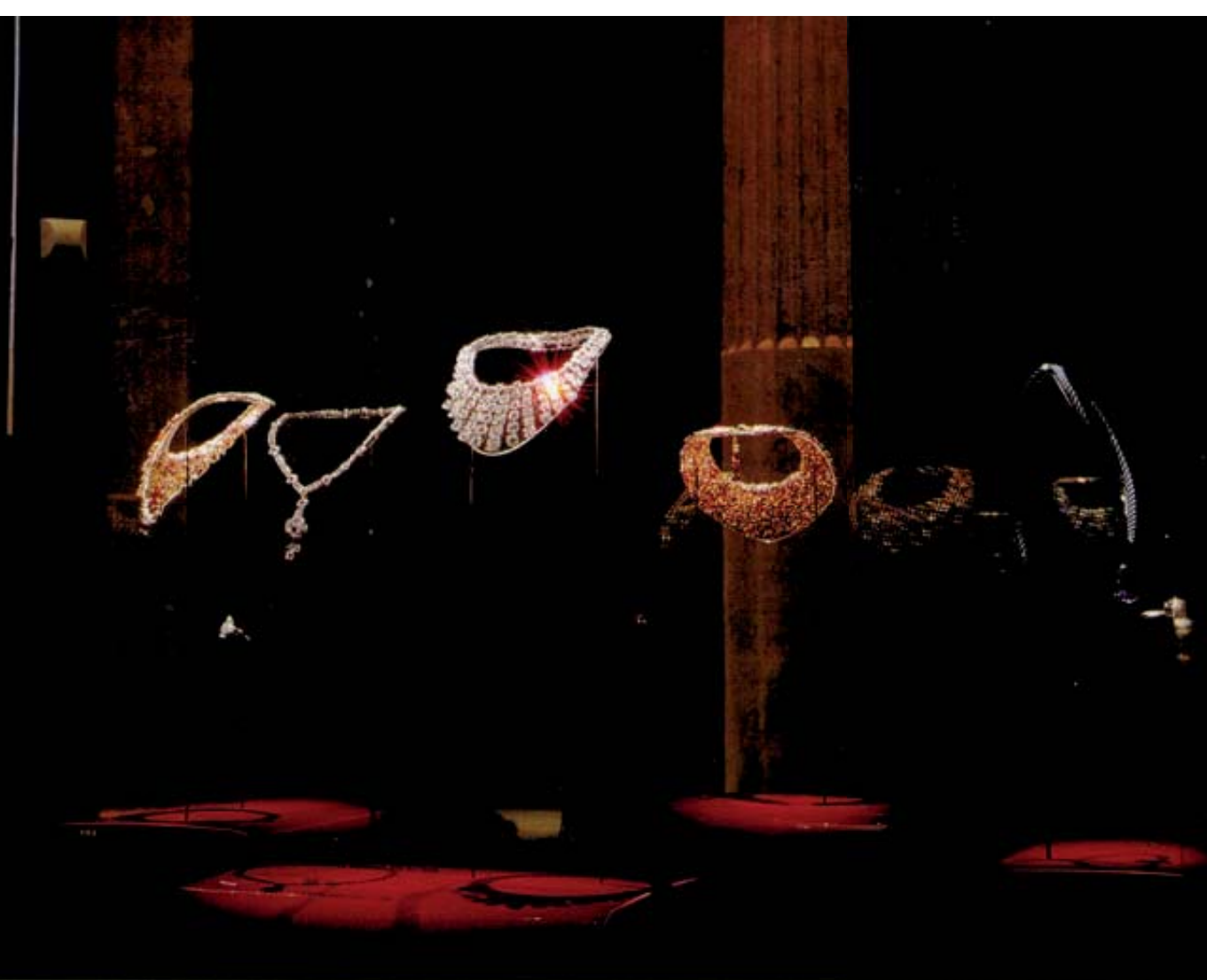


1.ピブネックレス (2005年作)。さまざまな形状と色彩の合計169個のサファイアと951個のダイヤモンドなどからなる。 2.会場のパワッポ・デルテ・エスポジツィオーネの迫力あるエントランス。 3.今年12月8日にクリスティーズN.Y.のオークションに出品される18点のユニークピースのひとつ。 4.8室で構成された会場の各部屋の入り口に設置されたコンセプトボード。 5.リチャード・パートンがエリザベス・テイラーに贈ったネックレス。製作は1962年。16のステップカットの、コロンビア産のエメラルドは60.5カラットある。 6.エリザベス・テイラーのプライベート・コレクションより、7世紀の東ローマ帝国の金貨を用いたコインのジュエリー。 7.今年完成したハイジュエリー・コレクションのネックレス。各色のサファイア、オレンジガーネット、エメラルド、ダイヤモンドからなるネックレス。70個のペアシェイプのサファイアは計154.75カラット。



現在ブルガリは、確固たるアイデンティティを保ちつつ、ビジネスの拡大を図っている。125周年を記念して、年間を通じサポートしている「セーブ・ザ・チルドレン」のキャンペーン、「Rewrite the Future」(「新しい未来」)、「Rewrite the Future」では、今年2月からシルバリングを発売。2010年までに800万人の子どもたちに教育の機会を与えることを目標としていたが、現在すでに約1000万人の子どもたちの教育環境を改善することに成功している。また9月には、ブルガリの新しい顔となる香水「ブルー・オールド・バルファムII」も世に出る。

の回顧展、「永遠と歴史の狭間で... 1884-2009 イタリアンジュエリーの125年」から十分に知ることができる。8室から構成された会場の一部の壁面は、映画女優たちの姿がプリントされた2枚の布で覆われ、そこに映像が重ねられ、モニターでは往年の名女優たちが主演した映画を流すという演出がなされている。それは彼女たちとブルガリの関係を明らかにし、時代順にまとめられた各部屋を通して、40年代から映画人との関係が強まった事実がよく理解できる。特に、エリザベス・テイラーの18点におよぶコレクションには、彼女へのオマージュとして1室が与えられ、一点一点の完成度の高さと華麗な色石は圧巻である。ダイヤモンドとエメラルド、あるいはサファイアなどのまばゆい光には感動を覚えずにはいられない。心ゆくまでブルガリの真髄を堪能できる回顧展だ。



チネチッタのローマ、そしてブルガリ

1950年代、チネチッタにやってきたハリウッドの女優たちを魅了したのは、ローマ・コンドッティ通りのブルガリ。125周年記念展は、ハリウッドとブルガリの関係を浮き彫りにする。

ブ

ブルガリの歴史は1884年に始まった。創業者ソテリオ・ブルガリ氏が、ローマのヴィア・システイーナ85番地に最初の店舗をオープンした年である。

それから125年が経過した。ブルガリの経営は、創業者ソテリオから息子、そして孫へと受け継がれ、現在ソテリオの孫であるニコラとパオロ両氏の甥、フランチェスコ・トラバーニ氏が4代目として率いている。トラバーニ氏は現在ブルガリ社のCEOとしてホテル経営も含め、ブランドの国際化と多角化を図りつつ、ジュエラーとしての立場をいっそう強固にすべく努力を続けている。

1905年にローマのコンドッティ通り10番地に移転したブルガリの本店は百年以上もの間、この地に鎮座し続けている。ブルガリとローマの地が、今も固い絆で結ばれているからだ。

銀の透かし彫り技術を使った装飾品でジュエラーとしてスタートしたブルガリが、そのアイデンティティをより明確にしたのは50、60年代。ダイヤモンドやルビー、サファイア、エメラルド、珊瑚、真珠など、さまざまな色彩の石や素材を組み合わせ

て、強烈な色の競演たる宝飾デザインを確立したのだ。それらは20、40年代のフランスの影響下で、シックで優雅にまとめられた花束のシリーズ群とは大きく個性を異にする。ローマの強い日差しがもたらす陽気な気分、そして古代ローマの各種の遺跡が放つ、神々しいまでの創造力と栄光といったものを投影するかのような宝飾品が生み出された。

ローマの繁栄は、世界でもっとも歴史ある映画制作所、チネチッタのそれと切り離せない関係がある。ブルガリにとっても同様だ。50年代のイタリアの経済成長期にチネチッタで仕事をするためにローマを訪れたハリウッドの女優たちが、こぞってコンドッティ通りのブルガリの店の常連となったのだ。エリザベス・テイラーに宝飾品を贈るリチャード・バートンも、またジーナ・ロブリンジータも、ブルガリの顧客リストに名を連ねる上客であった。その頃アンディ・ウォーホルは、「もっとも素晴らしい現代アートの展覧会に行くようなものだ」と言い、ブルガリの店への訪問を繰り返したという。

このようなブルガリと映画人の関係は、現在ローマのパラッツォ・デッラ・エスポジツィオーネで開催中





BVLGARI
RETROSPECTIVE
in ROME

永遠と歴史の狭間で:1884-2009
イタリアンジュエリーの125年

Photo / Naohiro Tsukada (STASH) (P.102), Sergio Calatroni (P.106~110)
Text / Miyuki Yajima